

早春 (1956)

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 日本

色彩 B&W

時間 144分

初公開日 1956/01/29

映倫 G

【解説】

小津安二郎が野田高梧とともに書いたシナリオを監督し映画化。不倫に揺れる昭和30年代のサラリーマン夫婦を描く。

蒲田に妻と住む杉山正二は、丸ノ内への通勤途中で知り合ったサラリーマンたちと仲良くなり、退社後に遊びに行くのが日課となっていた。妻は退屈な毎日から逃れるように、おでん屋を営む母の実家へ帰ったりしている。通勤仲間と出かけた江ノ島で、杉山は金子千代と接近。千代の誘惑に耐えきれず、関係を持ってしまう。二人の関係に気づいた杉山の妻は家出して、旧友のアパートに転がり込んだ。同僚の死をきっかけに、杉山は自分の生き方を振り返り、千代と別れようと考え始める。ちょうどその頃、会社で地方工場への転勤話が持ち上がった。

【クレジット】

監督 小津安二郎

製作 山内静夫

脚本 野田高梧
小津安二郎

撮影 厚田雄春

美術 浜田辰雄

衣裳 長島勇治

編集 浜村義康

音楽 斎藤高順

出演	淡島千景	杉山昌子
	池部良	正二
	高橋貞二	青木大造
	岸恵子	金子千代
	笠智衆	小野田喜一
	山村聡	So Yamamura 河合豊
	藤乃高子	青木テルミ
	田浦正巳	北川幸一
	杉村春子	田村たま子
	浦辺条子	北川しげ
	三宅邦子	河合雪子
	東野英治郎	服部東吉
	三井弘次	平山
	加東大介	坂本

須賀不二夫
田中春男
中北千枝子
中村伸郎
永井達郎
宮口精二
長岡輝子
菅原通済
山本和子
諸角啓二郎

田辺
野村
富永栄
荒川総務部長
田村精一郎
三浦勇三
母さと
菅井のツーさん
本田久子
辻